

# 令和2年度第1回酒田市公民館運営審議会 会議記録

令和2年10月8日(木)

午前10時00分～11時30分

文化センター412号室

- 出席者 高橋利春委員、前田茂実委員、齊藤剛士委員、阿部公一委員、齋藤豊司委員
- 欠席者 土門敦委員、齋藤嵩史委員、加藤千鶴委員、佐藤春佳委員、石川歩夢委員、佐藤純子委員
- 事務局 阿部課長、村井課長補佐、深松課長補佐、小野社会教育主査兼係長、長谷川主事、佐々木主事、佐藤専門員

## 1 開会(事務局)

## 2 課長あいさつ

## 3 委員長あいさつ

## 4 会議

### (1) 協議事項

#### ① 今年度の教育目標と重点について(事務局 内容説明)

(質疑応答)

委員長 本来であれば、芸術の秋は様々な事業の中心となる時期のはずだったが、この状況では厳しい。当初の予定から比べると実行率はどのくらいか。

事務局 後の説明にも出てくるが、大きなイベントは軒並み中止になっている。おおよそ8割がたは中止。希望ホールでのイベントはほぼ中止。

委員長 小ホールはどうか。

事務局 感染症拡大防止の観点から大きな会場を希望されることが増えたため、会議などでの使用は増えている。しかし、市主催事業としては人数を限定する予約制での開催としている。集客し交流を狙ったものについてはほぼ中止にし、人数を限定してできるものはなるべく開催する方向へ。また、小学校単位での事業(出前講座)については実施している。

委員長 各団体は場所の確保に苦慮しているようだ。

#### ② 令和2年度社会教育・中央公民館主要事業(案)について(事務局 内容説明)

(質疑応答)

委員長 成人式の中止は大きい。関東圏から学生が来市し交流することを考えると、判断は難しかったと思う。やはり市民からも意見があったか。

事務局 いくつか意見があった。市民の中でも新型コロナウイルス感染症に対する危機感に温

度差があったのは事実。酒田市在住の成人式実行委員は自身が酒田市にいるため、市外在住者に対して厳しい。その点は少し気になった。

委員長 時期的に残念だったが、終息すればまだ希望はある。生涯学習まつりに関して、最終的には中止とした。これを機に開催期日など、問題点を検討したほうが良いと思う。特に市主催の他イベントと開催日が重なっているところと開催期間。皆さんその点に関してもご意見いただきたい。

委員 集客するイベントを中止するのは当然であり、迷う必要がない。今後コロナ禍における開催の方法を模索していけばよい。その中でも、リモートでの講座開催などデジタル化を推進していただきたい。現在進めていることはあるか。また、伝承文化シリーズに庄内刺し子を取り入れていただきたい。次に、現在開催を検討している「お金のこといろいろ」講座はPayPayと連携してキャンペーンを行っている今だからこそ需要がある。すぐに開催した方が良いと思う。

事務局 10月1日にデジタル変革戦略室が発足した。最高デジタル責任者に酒田市出身NTTデータの本間洋社長を迎え、庁内のデジタル化というより、市民サービスのデジタル化を進めていく。小中学校の全生徒にタブレットを配付し授業に活用していくGIGAスクール構想が来年度から実施されるが、その流れで、文化センター205号室に教職員をはじめ関連する人材が研修するための施設を作る予定。空いている時間帯で、その設備を社会教育文化課でも活用していきたいと考えている。

委員長 酒田市はWi-Fi環境が弱い。日本海総合病院はしっかりしている。機材や設備の充実はずいともお願いしたい。

委員 先の委員の話聞いて、私も講座の内容云々というより整備関係の強化の方が大切だという思いが強まった。やるやらないというレベルの話ではなく、今後デジタル化の時代に必ずなっていく。オフラインでの対面に固執し対策を考えるよりも、オンラインでできることを模索していくほうが建設的。他の自治体や県外の有識者との連携、市内在住の移住者や経営者との情報交換などに活用できる。新しい時代が来ているという前向きな事業を。酒田市にある自然資源などをデジタルコンテンツとして県外にアピールする良い機会だと思う。

委員長 横の連携は大切。横の連携が弱いことによって失敗した過去の事例も多い。GIGAスクール構想のタブレット支給は個人へあげるということか。

事務局 タブレットはあくまで貸与である。

委員長 酒田市青年会議所では今年度の事業は開催できているか。

委員 酒田まつりをはじめ大概のイベントは中止。逆に事業所への支援に注力している。

委員長 酒田市自治会連合会ではどうか。

委員 今年度の会議は書面決議が多く、集まる機会がない。来年初めには何かしたいとは考えているが、このコロナ禍の状況では仕方ないと考えている。質問だが、新規事業の伝承文化シリーズや偉人紹介事業の募集人員はどのくらいか。

事務局 伝承文化シリーズは10人程度。偉人紹介事業は小中学校に写真を掲示するという事業であり、募集して講義を行うという事業ではない。

委員長 生涯学習まつりについてはどうか。

委員 開催期間も含め、検討する必要があると思う。また、参加人数によっては中止せざる

をえないこともあると思う。

委員 コロナ禍により大学もほぼ ZOOM でのリモート講義。後期からは対面授業も行う。デジタル化が進んだ昨今、若い人たちは知らないこともスマートフォンですぐに調べられるため、社会教育のありがたみを感じる機会が少なくなった。講座へも参加しない。今年度は対応に追われ仕方ないと思うが、社会教育は受講生同士のコミュニケーションを通して次世代のリーダーを育成するという側面もあるため、デジタル化への移行についてはその解決策を模索する必要がある。また、次のふるさと教育にも関係することではあるが、イベントが欲しい。最近小学生でも動画を作成することができるため、個人が制作する酒田市の CM のコンテストを行ってはどうか。

委員長 デジタル化に移行する際、高齢者が取り残されることもあるのではないかと。その点も気をつけなければならない。

事務局 ご意見を伺い、ジオパークに焦点を絞ってコンテストを企画しても面白いと思った。

委員長 東北公益文科大学のカフェテリアや図書館は、関係者以外入館できないようになっていたが、今もそうか。授業はオンラインで行っているのか。

委員 今も入館は制限されている。授業についてはこれまでオンラインのみだったが、後期からは一部を除き対面で行われる。200科目くらいの授業がオンラインで行われていた。

委員長 教員としてオンライン授業への移行に戸惑いはなかったか。

委員 もちろん人によっては苦戦している教員もいた。しかし、デジタル化に対応できなければ教員をやめるしかない。小学校の先生方もできないと言っている場合ではない。そんなことを言われるのは、やはり公務員だからかと思う。他の業種にいる方々も同じように苦労しながら時代に対応している。

委員長 大学でも新生はキャンパスにも行けず友人関係もうまく作れないようだ。

委員 友人関係の構築と授業はまた別物である。

委員長 偉人紹介事業について。先日里仁館で成田三樹夫氏について話をするよう依頼があった。比較的最近の偉人についても取り上げてほしい。

### ③ ふるさと教育（郷土愛の醸成）関連事業について（事務局 内容説明）

委員長 旧鑑屋の改築はどのようになっているか。

事務局 10月から休館している。屋根の改修と耐震工事を行う。5か年の予定で、総額で2億5千万円の費用がかかる。国の補助金を利用する。

委員長 山居倉庫はこれから国指定の史跡を目指して動き始めるのか。すべての倉庫の指定を目指すのか。

事務局 10月に国の審議会に諮る予定。すべての倉庫が対象。国の史跡に指定されれば、購入費用に国から8割補助金がもらえる。令和3、4年度で検討委員会を発足し、保存活用計画を策定する予定。文化庁でも、して良いこと悪いことの指導がないため、今後意見交換しながら進めていく。

委員長 倉庫の一部を壊したりはしないか。

事務局 壊すことはない。樗の木まで含め史跡に登録するため、一帯を保存していく考えである。

委員 小中学校の学習指導要領で、すでに郷土愛の醸成に関しては取り組んでいるはずだ。事業として中央公民館がふるさと教育に取り組む際、これまでの学校で取り組んできた実績のプログラムとの連動が必要。でなければ先生方はこちらに振り向いてくれない上に、上滑りの事業で終わってしまう可能性がある。先生方を対象に発表会なども良いだろう。若い方は動く教材でないと興味を示さない。中央公民館の事業にも関心がない。まずは職員が酒田市をPRする動画などを作成し、YouTubeなどに公開してみるのも良い。農林水産省の職員がそのようなPRを行っていた。毎年度似たような講座の繰り返しで、それで良いならば良いが、何か新しいことを始める気があるならば価値のあるやり方だと思う。また、メディアとの連携も弱い。もっとプレスリリースするべきだ。

委員 長井市や高島町は郷土愛の醸成に関して見習うべきところがあると思う。YouTube といえ、当地区では地域おこし協力隊の内藤氏が刺し子のハウツーを YouTube にアップしている。酒田市のPRすべきところは、やはり東北公益文科大学と山居倉庫があること。子ども世代へのアプローチも大切だが、その親世代へのアプローチも大切だ。東北公益文科大学への入学、市内企業への就職の道筋を親の希望を通して子どもたちへ影響を与えられれば良いのではと思う。様々な面からふるさと教育を行うのも良いが、もう少し絞って、共通の目標の元に事業を進めていかなければならない。子どもは全国一律学習指導要領でふるさと教育を学んでいるが、なぜ酒田市だけ定着率が低いのか。やはり周りの大人や環境に要因があるのではないか。

事務局 やはり単年度で事業を行うのではなく、数年に跨る事業を生涯学習推進計画に基づいて行っていかなければならないと思う。2年目3年目へ繋げられるような講座の検討が必要なのだろう。また、SNSに関しては酒田市立資料館が上手く活用しており、実際に来館者を増やしている。そういった実績があるので、職員の発信については積極的に検討していきたい。

## (2) その他

(特になし)

## 5 その他

委員 来年度から松陵コミュニティ振興会で子どもの居場所づくりの運営を始める予定。夏休みや冬休みなどの長期休暇時を見込んでいる。学童ではできないようなことをやろうと計画。各コミュニティ振興会でもこのような取り組みが広がることを願っている。

委員長 いよいよミライニがオープンする。酒田市総合文化センター内にある図書館跡地の活用はどうなるのか。

事務局 ミライニについては11月28日に先行オープン。図書館全体の機能は令和4年から。図書館跡地については新市立図書館のオープンと同時を考えている。跡地については様々な案がでていますが、一つは酒田市公文書館や光丘文庫の公開と保管場所、資料館を併設するという考えている。

## 6 閉会（事務局）